

匹見地域協議会（第 1 回）会議次第

日時 平成 30 年 5 月 7 日（月）14：00～

場所 匹見タウンホール 集会ホール

出席者

（委 員）藤谷 一剣・齋藤 惟人・大谷 文男・西川 友史・大久保純子
溝田 洋子・村上 巴・河本 亮・齋藤 光・齋藤 幸士

（益田市）山本市長

河上支所長・藤井地域振興課長・田中地域振興課参事・塩満人口拡大課長
齋藤分室長・藤本分室長・井上分室長・佐々木分室長
事務局

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

（1）支所の体制について <資料 1>

（2）まちづくりコーディネーター事業報告について <資料 2>

4. 協議事項

（1）平成 30 年度施政方針について（市長） <資料 3>

（2）㈱ひきみ指定管理施設の利用状況等について <資料 4>

（3）合併調整項目について <資料 5>

5. その他

次回開催 平成 30 年 月 日（ ） 時 分～

主催者名	匹見総合支所地域振興課
会 議 名	平成 30 年度 第 1 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 30 年 5 月 7 日（月） 14 時 00 分～16 時 30 分
開催場所	益田市匹見タウンホール 集会ホール
出 席 者	・ 匹見地域協議会委員（8 名） ・ 山本市長 ・ 匹見総合支所：河上支所長 地域振興課：藤井課長、田中参事 井上補佐、藤本補佐、佐々木補佐、斎藤補佐 大谷

【会長あいさつ】

新市建設計画を合併した当時に作ったが、その協議会も達成度をチェックし、市においてもしっかり見直して、今後どうしていくかということを大いに考えていただきたい。

【報告事項】

(1) 支所の体制について <資料 1 地域振興課長より説明>

- 匹見総合支所は、地域振興課 1 つの課となり、その中に政策企画局、総務部、福祉環境部、産業経済部、建設部、教育委員会事務局教育部分室のそれぞれ分室が設置をされ、政策企画局兼総務部、産業経済部兼建設部、教育部分室の 4 名の分室長が配置をされている。
- 業務内容についてもこれまで支所がおこなってきた業務とほぼ同じになっている。
- 産業経済部農林水産課匹見林業振興室が支所に設置をされており、分室長は地域振興課参事が兼務し、2 名の職員が配置され、木の駅での業務も担っている。

《質疑・意見》

- 課長と同等の権限とはどのような内容か。
 - ▷決裁権については事務処理規定で定められている。
- 予算内での優先順位を持った事業の進め方はどうするのか。
 - ▷基本的には予算要求のあったものについては、分室の中で組み立てていきながら事業が進んでいき、予定しないものが出た場合には本庁と協議、調整しながら進められていく。
- 住民からの要望の中で 500 万円までの事業がここで決済できるのか。
 - ▷事業がある中での選択の部分は本庁と協議して決め、優先順位が決まっていく。決まった後の事務決裁は分室長の方が進めて行く。
 - ▷予算で査定されたものについては、新年度になって復活というのは総じて非常にハードルが高い。
 - ▷30 年度の予算は各支所も今まで通り要求をして、それを 1 つの枠にまとめた中で持っている。緊急的なものについては、本庁との協議の中で先に実施することは可能。
- こうした機構改革を契機に、ダイレクトに本庁に話が行くという体制を作ってもらいたい。

▷地域協議会で議論をさせていただきながら事業要望をさせていただきたい。

●水道工務に関することは一括して水道部か。

▷業務課と工務課の方に分かれており、修繕は本庁の指示で行うが 1 名の嘱託により緊急修繕の場合対応する。

▷水質管理については本庁直轄で対応する。

●水質管理が水道の 1 番重要なところなので、水系伝染病等すぐに対応できるような体制を取っておく必要があるのではないか。

▷今水質検器等については濁度計等各施設それぞれ整備をしており、WEB で本庁でもすぐ見れる。異常があった場合の対応も全て 24 時間見れるという体制にある。

●公民館職員としての事務取扱を定めておくべき。市営住宅は市が県の住宅供給公社に委託しているが、入居者に対して指導が行き届いていないと感じられる。

▷公営住宅については、公社の方へ伝え取り組みを図っていききたい。

●今後地区振興センターがどうなるのか。また公民館との折り合いはどうなっていくのか。

▷現在は公民館と地区振興センターとが同じところにあって、地域の人づくり事業等を進めて来ている。一方国とか県が進めている小さな拠点づくりというところで住民主体の組織を作っており地域マネージャーが地域自治組織を運営していくのに 1 つは柱となっているが、今は各地区振興センターに地域応援隊員を配置し、地域づくりをコーディネートしていく役割を担っている。相談をしながらスムーズに地域振興に繋がっていくような方向でいろいろな話し合いをしながら進めていきたい。

(1) まちづくりコーディネーター事業報告について <資料 2 コーディネーターより説明>

○情報発信について、新聞やテレビへの情報提供や報道は PR 効果も絶大であることから今後も積極的に活用していきたい。

○定住対策は定住情報誌『おかえり』を年 2 回発行した。また本庁や美都とも連携し定期的な情報共有や島根 UI ターンフェア in 広島への参加、益田市が主催する UI ターン者大交流会の対応も行った。引き続き UI ターンのきっかけづくりに取り組みたい。

○集落対策については各種イベントや事業が円滑に実施されるようにサポートを行った。集落対策は定住対策と共に交流定住人口を増やす有効な施策のひとつであり、今後も一体的に進めて行きたいと考えている。

○加工グループの育成については、平成 29 年度は地域からの要請が無く、サポートはおこなっていない。今後も生産者と販売先との間を取り持ち、農産物や特産品の PR と生産者の副収入獲得に尽力していきたい。

○観光対策は官民で作る匹見田舎体験推進協議会を母体に田舎体験事業を実施し、交流人口拡大に努めた。今後も温泉を核とした交流事業を促進していきたい。

○匹見ボランティア制度について、平成 29 年度は地元 10 団体から要請があった

○その他農家民泊開業に向けた支援で道川地区への移住者から民泊開業の相談を受けて平成 29 年の開業に繋がった。

≪質疑・意見≫

●わさびについて生産組合との関わりが出てない。連携を持たないとなかなか振興策というのは進んでいかない。担当課でしっかり協議してもらいたい。市から業務委託を受けているので、年度内に報告を受けて契約をするというのが本来の形だと思うので、指導の中で業務を委託してほしい。

▷年度内の地域協議会の方で報告するようにしたい。

【協議事項】

(1) 平成 30 年度施政方針について<資料 3 市長より施政方針の説明>

- 平成 30 年度の市政方針、基本方針は、昨年度の民間企業との連携の強化を進めて行くという意味での進化と、深めていくという意味の深化、この 2 つの「進化（深化）」を大きな考え方として進めて行きたい。
- 官民連携について今年度重点的なものとなるのは自転車によるまちづくり。今年度は 2 年後の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致を目指す重要な年となる。今後とも民間の方々のご理解やご協力をいただきながら進めて行きたいと考えている。
- また官民連携というのは様々な政策にも関わってくるので、政策同士の政策間連携というのも大切になってくる。この政策間連携では昨年度に引き続いて歴史を活かしたまちづくりが中心的な施策ということなり、今年は歴史文化基本構想の策定をおこなう年になる。今後この歴史文化基本構想の策定からいわゆる西部の日本遺産への登録を目指し、単に文化財だけではなく観光振興や産業振興、それから地域振興、様々な政策の要素を噛み合わせておこなっていききたい。
- 政策間連携は更に首都圏や大阪などの大都市との連携ということも重要になってくる。産業面での都市間との繋がりというのを深めていきたい。また、特に首都圏の大学との連携も視野に入れておこなっている。地域の様々な課題の解決策の発見を大学の先生や学生と地域の住民が一緒になって進めて行くということによって、益田市においても地域の活力の増進や機運の醸成に繋がってくるものと考えている。
- また首都圏だけではなくて、近隣の市町や島根県との連携など比較的近い地域における広域連携ということも重要。萩石見空港の 2 往復運航が持続的に継続するように基礎的需要の創出ということ強く進めていかなければならないと思っており、その意味でも上に様々な連携を軸に新しい産業の創出や、産業人材・看護人材の育成、そして首都圏の大学との基礎づくりを進めていきたいと考えている。
- このように連携と言っても様々な要素があるので、こういった多くの連携を視野に入れて市政運営を進めていきたいと考えている。ついては、匹見のみなさま方にも様々な面でご理解、ご協力をいただきたいと思います。
- また、今年度は総合支所の機構改革も始まった年となる。匹見地域においてもこの支所の機構改革が地域の住民と行政の間の連絡が疎遠になるということにならないように本庁と支所との連携ということも今まで以上に留意していかなければならないと思っている。

《質疑・意見》

人口拡大・定住促進について

- 人口減を解消するために産業を興し、働き場を確保することを市全体としては望みたい。匹見については山が産業の元であるので政策の中に活かしていただきたい。
 - ▷人口が増えるためには産業の育成が重要。産業というのは民間で興し、行政というのはそれをいかに効率よく支援して伸ばしていくことと考えている。匹見については林業が 1 番特色を活かした基幹産業ということになると思う。自伐林業の成業等も市としては進めているおり、なんとか若い方々が最初は林業＋副業の収入で家計が維持できるだけの収入を確保していただける道筋を一緒になって作っていききたいと思っている。
- 益田市全体で考えても毎月のように人口が減っている。この匹見の将来像をどうしていくのかということを今一度本腰を入れて考えることをしていただきたい。
 - ▷人口の減少を即効策で改善していくためには、転入者を増やすということが最も考えられる策ということになる。転入を増やしていく取り組みのためには行政も努力しなければならないが、やはりその土地に根付いていただくためにはその地域の住民の方々と深い密接な繋がりを持っていただくということが大切。地域の方々自身に転入者を繋ぎ止めていただくために深い関係、取り組みを持っていただきたい。そのためにも地域自治組織を中心に各地区で地区の魅力とか特性に合った U・I ターン者の促進、定着の施策に取り組んでいただき、それを市が適宜支援するという体制になるべく益田市全域多くの地区でそう

いった体制になるように取り組んでいきたいと思っている。

- 閉校となった道小学校の耐震化をして、交流人口拡大や農林業体験施設として地域自治組織で利用する場合、市としてどのような支援をしてもらえるか。

▷旧道川小学校の校舎の活用というのは道川の住民のみなさんと一緒に行政も考えていかなければならない課題だと思っている。

- 空港の問題も県も本格的に取り組んでおり非常に良い方向だと思っている。ファクトリーパークもの企業誘致も積極的に県と連携を取って進めて行っていただきたい。匹見の事業として自伐型林業は匹見の住民にまだ浸透していない。強力に PR して取り組んで進めていただきたい。

▷空港については市としても県とこれまで以上に連携をして空港の需要が持続的にあり続けるように産業とか観光とかさまざまなことに取り組んでいきたい。ファクトリーパークについては市と県が一体となって引き続き新しい案件の確保とフォローを行いたい。林業については、これまでと違う林業の手法を模索していただくために市もいろいろな協力、支援をしていきたい。

- 益田に球団が利用できる施設を作ってアピールするというのも一つの益田の活性化にも繋がるんじゃないかという気がしている。

▷益田に人が来てもらうためには、まずは魅力的な充実した施設が必要ということもよくわかるが、グラントワなど今ある施設をどう活かすかということにまずはエネルギーを注ぐのが大事であると考えている。

副市長について

- 副市長を早く決めることが益田市の体制として必要。

▷副市長人事は議会同意が必要。なるべく早期に副市長を選任して議会の同意をいただいて任命できるように鋭意努力している。

その他

- 石見空港と東京 2 便化の維持について、益田市に対する費用対効果を丁寧に住民にわかるように説明をした方がもっと理解をしてもらえる。また新規就農者等へは定住につながるよう指導を含め行政がもっと関わるべき。

▷今の益田市は非常に厳しい財政状況であるが、もし 2 往復運航が 1 往復運航に戻るようなことがあると相当経済活動や観光の振興に大きなダメージになる。新規就農者等の定着についてはきめの細かい支援をしていくように努力したい。

【報告事項】

(2) ㈱ひきみ指定管理施設の利用状況等について<資料 2 地域振興課参事より説明>

- ・各施設の利用状況について資料に基づき説明

○(株) ひきみから 3 月 22 日付で匹見峡温泉やすらぎの湯の休業日について月曜日と火曜日を定休日としたいとの協議があったが、地域協議会で意見をいただき市として最終的な判断を行いたい。

《質疑・意見》

- 取締役会で決定したうえでの協議か。

▷非常に労働者の確保が難しい中で、今までの営業のような形では非常に困難な状態というのは取締役会としても大きな考えを持っておられる。

- 従業員不足の要因に関しては、市が調整をしないといけないのでは。休みを 2 日に増やして人を確保するだけでは解決にならないと思う。観光施設が週 5 日しか稼働しないのは問題。住民は心配している。

▷益田市と（株）ひきみとの厳しい議論、またしっかり指導をするべきと認識している。取締役会で発言もしていきたい。

(3) 合併調整項目について <資料4 地域振興課長より説明>

- 平成 16 年の益田市との合併における調整項目の 1 つに防犯灯に関するものがあり、防犯灯設置補助金及び匹見町の防犯灯維持管理費の取り扱いについては平成 16 年度が現行通りとし、3 年間を目途に統一の方向で調整する内容。
- 防犯灯設置補助金については合併後本庁一括の個別補助事業として実施をしているが、元々匹見町が管理していた防犯灯の管理費については市の管理のままの状態ということになっている。
- 今後は、合併後の調整方針の通り統一の方向で各自治会と協議をすることとしているが、その前段で各自治会の協力をいただいて設置防犯灯の実態調査を実施したい。
- 実態調査の依頼については 5 月 31 日の自治会長会議でお願いする予定。

《質疑・意見》

- 調査をして廃止するかしないかは別の問題なのか。
- 自治会長会議の中で廃止する街灯は無いという話が出たら全部残すということか。
 - ▷街灯の維持管理について本来は合併をしてからすぐに解決をしないといけなかった問題。実態が把握しきれていないのでその調査をさせていただき、数を明らかにして地域協議会にも合併調整項目について扱いについて協議を行い、自治会とも具体的に協議を行うこととなるが、何にも根拠無く話ができないのでこの度調査から入らせていただきたい。

【その他】

- 国道 488 号の改良での全面通行止めの説明を。バスの運行は。迂回路の待避所は。
 - ▷落合工区落石対策工事で全面通行止めを行う。当日の通行規制については看板を両端に出し事前にお知らせする。バスについては規制をかけていない。迂回路については木の伐採等対応している。市道は幅員が狭いので離合が出来にくい、看板にて表示している。
- 国道 488 号の改良は合併当時の匹見町民の大きな願いだった。それが全然進んでいない。迂回路の待避所についても本庁の中で取り組んでもいただきたい。
 - ▷国道 488 号は合併の 1 番重要な要望事項で、益田市も県知事要望の重点に入れている。改良の詳細は改めて把握をさせていただきたいと思っている。
- 迂回路は普通車同士でも離合が難しいので、水路に砂利を敷いて幅員を若干広げる等の工夫も考えて県に報告してもらいたい。
 - ▷県に報告する。
- 地区イベントで人手が足りない時は、公民館は全面的に支援をしてきていいと思うがいかがか。
 - ▷公民館は考えて動いていると思うが、支所としてコーディネーターや地域振興課としてもぜひ協力させていただきたい。
- 美都ではイベントに地域振興課の職員が結構出ている。匹見は出てる人が少ないと私は感じている。もう少し協力してほしい。
 - ▷春祭り等は地域振興課ほぼ全体制で対応している。田舎体験イベントについては、以前よりコーディネーターに加え 1 名なり 2 名の職員が対応している。地域振興課としても協力する方向で、まずは情報共有から進めていきたい。
- 地域づくり戦略プラン連絡調整会議のまとめのこの冊子を最低でも公民館や地域自治組織には配布すべきでは。
 - ▷配布する。